

第 138 回日商簿記検定試験 模範解答

2 級

商 業 簿 記

第 1 問

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	建物減価償却累計額	3,200,000	建 物	5,000,000
	未 決 算	1,800,000		
2	不 渡 手 形	82,000	受 取 手 形	80,000
			現 金	2,000
3	割 賦 売 掛 金	270,000	割 賦 売 上	270,000
4	商 品 保 証 引 当 金	60,000	現 金	60,000
5	仕 入	500,000	買 掛 金	540,000
	仮 払 消 費 税	40,000		

仕訳 1 組につき 4 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

第 2 問

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		
		資 本 準 備 金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当 期 首 残 高	40,000	5,000	0	5,000
当 期 変 動 額				
剰余金の配当等				
新 株 の 発 行	(7,500)	(7,500)		(7,500)
吸 収 合 併	(10,000)	(12,000)	(3,600)	(15,600)
当 期 純 利 益				
当期変動額合計	(17,500)	(19,500)	(3,600)	(23,100)
当 期 末 残 高	(57,500)	(24,500)	(3,600)	(28,100)

	株 主 資 本					
	利 益 剰 余 金					株 主 資 本 合 計
	利益準備金	そ の 他 利 益 剰 余 金			利益剰余金 合 計	
		新築積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当 期 首 残 高	2,000	0	300	6,000	(8,300)	(53,300)
当 期 変 動 額						
剰余金の配当等	(200)	(400)		(△2,600)	(△2,000)	(△2,000)
新 株 の 発 行						(15,000)
吸 収 合 併						25,600
当 期 純 利 益				(900)	(900)	(900)
当期変動額合計	(200)	(400)	0	(△1,700)	(△1,100)	(39,600)
当 期 末 残 高	(2,200)	(400)	300	(4,300)	(7,200)	(92,800)

1 つにつき 2 点 合計 18 点

(配点は、当学院の予想です)

第 3 問

貸 借 対 照 表

平成 26 年 3 月 31 日

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
I 流 動 資 産		I 流 動 負 債	
現 金 預 金	(771,010)	支 払 手 形	(600,000)
受 取 手 形	(200,000)	買 掛 金	(2,540,000)
売 掛 金	(1,166,000)	短 期 借 入 金	(7,500,000)
商 品	(2,221,000)	未 払 金	(139,100)
前 払 費 用	(105,000)	未 払 法 人 税 等	(100,000)
(前 渡 金)	(120,000)	未 払 費 用	(249,250)
貸 倒 引 当 金	△ (13,660)	流 動 負 債 合 計	(11,128,350)
流 動 資 産 合 計	(4,569,350)	II 固 定 負 債	
II 固 定 資 産		(長 期 借 入 金)	(5,000,000)
有形固定資産		退 職 給 付 引 当 金	(430,000)
建 物	(27,840,000)	固 定 負 債 合 計	(5,430,000)
減 価 償 却 累 計 額	(18,007,000) (9,833,000)	負 債 合 計	(16,558,350)
備 品	(520,000)	純 資 産 の 部	
減 価 償 却 累 計 額	(472,000) (48,000)	I 資 本 金	(1,900,000)
(土 地)	(7,500,000)	II 資 本 準 備 金	(1,600,000)
有 形 固 定 資 産 合 計	(17,381,000)	III 利 益 剰 余 金	
無 形 固 定 資 産		利 益 準 備 金	(300,000)
(の れ ん)	(168,000)	(繰 越 利 益 剰 余 金)	(1,760,000)
無 形 固 定 資 産 合 計	(168,000)	利 益 剰 余 金 合 計	(2,060,000)
固 定 資 産 合 計	(17,549,000)	純 資 産 合 計	(5,560,000)
資 産 合 計	(22,118,350)	負 債 及 び 純 資 産 合 計	(22,118,350)

1 つにつき 2 点 合計 22 点
(配点は、当学院の予想です)

工 業 簿 記

第 4 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	仕 掛 品	1,595,000	材 料	1,595,000
(2)	仕 掛 品	1,029,300	製 造 間 接 費	1,029,300
(3)	製 品	2,712,900	仕 掛 品	2,712,900
(4)	消 費 価 格 差 異	114,600	材 料	114,600
(5)	予 算 差 異	8,100	製 造 間 接 費	48,600
	操 業 度 差 異	40,500		

仕訳 1 組につき 4 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

第 5 問 (20 点)

問 1

総 合 原 価 計 算 表

(単位：円)

	原 料 費	加 工 費	合 計
月 初 仕 掛 品 原 価	1,600,000	749,500	2,349,500
当 月 製 造 費 用	7,520,000	7,573,700	15,093,700
合 計	9,120,000	8,323,200	17,443,200
差引：月末仕掛品原価	(◎ 1,824,000)	(◎ 924,800)	(2,748,800)
完 成 品 総 合 原 価	(○ 7,296,000)	(○ 7,398,400)	(14,694,400)

問 2

総 合 原 価 計 算 表

(単位：円)

	原 料 費	加 工 費	合 計
月 初 仕 掛 品 原 価	1,600,000	749,500	2,349,500
当 月 製 造 費 用	7,520,000	7,573,700	15,093,700
合 計	9,120,000	8,323,200	17,443,200
差引：月末仕掛品原価	(◎ 1,920,000)	(◎ 979,200)	(2,889,200)
完 成 品 総 合 原 価	(○ 7,200,000)	(○ 7,344,000)	(14,544,000)

○1 つにつき 2 点

◎1 つにつき 3 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

【2 級解説】

第 1 問

1. 保険金の金額が確定するまでは、焼失した建物の帳簿価額を「未決算」勘定で計上しておきます。
2. 「不渡手形」勘定には、手形金額のみならず償還請求に伴う一切の費用を含めます。
3. 販売基準による割賦販売の処理は、掛けによる一般販売と同様に処理します。

第 2 問

株主資本変動計算書は、株式会社の純資産が 1 年間にどれだけ変動したかを示す財務諸表です。期首と期末の各純資産項目の変動内容を、当期変動額の区分に、変動内容ごとに記載します。

<当期変動額>

(1) 剰余金の配当等

(繰越利益剰余金)	2,600,000	(利益準備金)	200,000 *
		(未払配当金)	2,000,000
		(新築積立金)	400,000

$$* \quad \yen2,000,000 \times 1/10 = \yen200,000 \cdots \textcircled{1}$$

$$\yen40,000,000 \times 1/4 - (\yen5,000,000 + \yen2,000,000) = \yen3,000,000 \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} < \textcircled{2} \quad \therefore \yen200,000$$

(2) 新株の発行

(当座預金)	15,000,000	(資本金)	7,500,000
		(資本準備金)	7,500,000

(3) 吸収合併

(諸資産)	100,000,000	(諸負債)	74,400,000
		(資本金)	10,000,000
		(資本準備金)	12,000,000
		(その他資本準剰余金)	3,600,000

(4) 当期純利益

(損益)	900,000	(繰越利益剰余金)	900,000
--------	---------	-------------	---------

第 3 問

〔資料Ⅱ〕

1. 貸倒れについて

(貸倒引当金)	4,000	(売掛金)	4,000
-----------	-------	---------	-------

2. 電話料について

(通信費)	15,000	(現金預金)	15,000
---------	--------	----------	--------

3. 返品について

(売上)	30,000	(売掛金)	30,000
--------	--------	---------	--------

〔資料Ⅲ〕

1. 売上原価の算定について

商品評価損：¥22,000－¥11,000＝¥11,000

貸借対照表には、期末商品実地棚卸高を商品として記載するので¥2,232,000－¥11,000＝¥2,221,000 を記載します。

< 参 考 >

(仕 入)	20,000	(買 掛 金)	20,000
(仕 入)	2,350,000 ^{*1}	(繰 越 商 品)	2,350,000
(繰 越 商 品)	2,242,000	(仕 入)	2,242,000 ^{*2}
(棚 卸 減 耗 損)	10,000 ^{*3}	(繰 越 商 品)	21,000
(商 品 評 価 損)	11,000 ^{*4}		

売上原価の算定仕訳は「仕入」勘定や「売上原価」勘定を使用する方法がありますが、いずれの場合も損益計算書上の表示は同じです。

*1 期首商品棚卸高：決算整理前「繰越商品」勘定より

*2 期末商品帳簿棚卸高：¥2,200,000＋¥22,000＋¥20,000＝¥2,242,000

*3 ¥2,242,000－¥2,232,000＝¥10,000

*4 ¥22,000－¥11,000＝¥11,000

2. 貸倒引当金の設定について

(貸 倒 引 当 金 繰 入)	11,660 [*]	(貸 倒 引 当 金)	11,660
-------------------	---------------------	---------------	--------

決算整理後の貸倒引当金残高が貸倒見積高(受取手形及び売掛金期末残高の1%)になるように、決算整理前残高との差額を繰り入れます。

* 受 取 手 形：¥200,000

売 掛 金：¥1,200,000－¥4,000－¥30,000＝¥1,166,000

∴ (¥200,000＋¥1,166,000)×1%－(¥6,000－¥4,000)＝¥11,660
貸倒引当金残高

3. 買掛金について

(前 渡 金)	120,000	(買 掛 金)	120,000
-----------	---------	-----------	---------

4. 未払費用について

(未 払 費 用)	210,000	(給 料)	150,000
		(水 道 光 熱 費)	60,000
(給 料)	165,000	(未 払 費 用)	228,000
(水 道 光 熱 費)	63,000		

5. 前払費用について

(保 険 料)	15,000	(前 払 費 用)	15,000
-----------	--------	-------------	--------

6. 減価償却について

① (減 価 償 却 費)	76,000	(建 物 減 価 償 却 累 計 額)	75,000 ^{*1}
		(備 品 減 価 償 却 累 計 額)	1,000 ^{*2}

*1 予定計上額：¥75,000×11 ヲ月＝¥825,000

実際計上額：¥27,000,000÷30 年＝¥900,000

∴ ¥900,000－¥825,000＝¥75,000

*2 予定計上額：¥1,000×11 ヲ月＝¥11,000

実際計上額：{¥520,000－(¥471,000－¥11,000)}×20%＝¥12,000

∴ ¥12,000－¥11,000＝¥1,000

②	(建 物)	840,000	(修 繕 費)	840,000
	(減 価 償 却 費)	7,000	(建物減価償却累計額)	7,000 ^{*3}

$$*3 \quad ¥840,000 \div 20 \text{ 年} \times \frac{2 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = ¥7,000$$

7. 利息について

(支 払 利 息)	21,250 *	(未 払 費 用)	21,250
-------------	----------	-------------	--------

$$* \quad ¥7,500,000 \times 1.8\% \times \frac{1 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = ¥11,250$$

$$¥5,000,000 \times 2.4\% \times \frac{1 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = ¥10,000$$

$$¥11,250 + ¥10,000 = ¥21,250$$

8. 退職給付について

(退 職 給 付 費 用)	40,000	(退 職 給 付 引 当 金)	40,000
-----------------	--------	-------------------	--------

9. のれんについて

(の れ ん 償 却)	12,000	(の れ ん)	12,000
---------------	--------	-----------	--------

$$* \quad ¥180,000 \div (20 \text{ 年} - 5 \text{ 年}) = ¥12,000$$

10. 法人税等について

(法 人 税 等)	240,000 *	(仮 払 法 人 税 等)	140,000
		(未 払 法 人 税 等)	100,000

$$* \quad ¥600,000 (\text{税引前当期純利益}) \times 40\% = ¥240,000$$

< 貸借対照表の差額で税引前当期純利益を計算する方法 >

- ① 貸借対照表の「未払法人税等」と「繰越利益剰余金」以外の金額をすべて求めて、貸借合計を算出し、差額を計算します。

$$¥22,118,350 (\text{借方合計}) - ¥20,258,350 (\text{貸方合計}) = ¥1,860,000 (\text{貸借差額})$$

- ② ①で求めた金額を、税引前当期純利益をXと置いて「未払法人税等」と「繰越利益剰余金」に分けます。

$$\begin{array}{l} \boxed{¥1,860,000} \left\{ \begin{array}{l} \text{未払法人税等} : \frac{X \times 0.4}{\text{法人税等}} - \frac{¥140,000}{\text{仮払法人税等}} \\ \text{繰越利益剰余金} : \frac{¥1,400,000}{\text{前 T/B 繰越利益剰余金}} + \frac{X \times 0.6}{\text{当期純利益}} \end{array} \right. \end{array}$$

- ③ 上記を計算し、税引前当期純利益を求めます。

$$(X \times 0.4 - ¥140,000) + (¥1,400,000 + X \times 0.6) = ¥1,860,000$$

$$X = ¥600,000$$

第 4 問

- (1) $500 \text{ 円/kg} \times 3,190 \text{ kg} (=850 \text{ kg} + 1,240 \text{ kg} + 1,100 \text{ kg}) = 1,595,000 \text{ 円}$
- (2) 予定配賦率： $280 \text{ 円/時間} + 450 \text{ 円/時間} (= \frac{8,100,000 \text{ 円}}{18,000 \text{ 時間}}) = 730 \text{ 円/時間}$
- $730 \text{ 円/時間} \times 1,410 \text{ 時間} (=420 \text{ 時間} + 610 \text{ 時間} + 380 \text{ 時間}) = 1,029,300 \text{ 円}$
- (3) #11001： $311,000 \text{ 円} + 500 \text{ 円/kg} \times 850 \text{ kg} + 1,100 \text{ 円/時間} \times 200 \text{ 時間} + 730 \text{ 円/時間} \times 420 \text{ 時間} = 1,262,600 \text{ 円}$
 #11002： $500 \text{ 円/kg} \times 1,240 \text{ kg} + 1,100 \text{ 円/時間} \times 350 \text{ 時間} + 730 \text{ 円/時間} \times 610 \text{ 時間} = 1,450,300 \text{ 円}$
 $1,262,600 \text{ 円} + 1,450,300 \text{ 円} = 2,712,900 \text{ 円}$
- (4) 実際消費額： $520 \text{ 円} \times 650 \text{ kg} + 540 \text{ 円} \times (3,190 \text{ kg} - 650 \text{ kg}) = 1,709,600 \text{ 円}$
 消費価格差異： $1,595,000 \text{ 円} - 1,709,600 \text{ 円} = \triangle 114,600 \text{ 円 (借方(不利)差異)}$
- (5) 予算許容額： $280 \text{ 円/時間} \times 1,410 \text{ 時間} + \frac{8,100,000 \text{ 円}}{12 \text{ カ月}} = 1,069,800 \text{ 円}$
 予算差異： $1,069,800 \text{ 円} - 1,077,900 \text{ 円} = \triangle 8,100 \text{ 円}$
 操業度差異： $(1,410 \text{ 時間} - \frac{18,000 \text{ 時間}}{12 \text{ カ月}}) \times 450 \text{ 円/時間} = \triangle 40,500 \text{ 円 (借方(不利)差異)}$

第 5 問

問 1

仕損減損が工程の終点で発生している場合、完成品にのみ正常減損費を負担させます。負担の方法は、正常減損量を完成品量に加えて、原価を完成品と月末仕掛品に按分します。

原 料 費			
月初 800kg	完成		
1,600,000 円			7,296,000 円
投入 3,200kg	3,000kg	(差額)	
7,520,000 円	減損 200kg	—	
	月末 800kg		1,824,000 円

月末仕掛品原価

(1,600,000 円 + 7,520,000 円)

$$\times \frac{800 \text{ kg}}{3,200 \text{ kg} + 800 \text{ kg}} = 1,824,000 \text{ 円}$$

加 工 費 (数量は完成品換算量)			
月初 400kg	完成		
749,500 円			7,398,400 円
投入 3,200kg	3,000kg	(差額)	
7,573,700 円	減損 200kg	—	
	月末 400kg		924,800 円

月末仕掛品原価

(749,500 円 + 7,573,700 円)

$$\times \frac{400 \text{ kg}}{3,200 \text{ kg} + 400 \text{ kg}} = 924,800 \text{ 円}$$

問 2

仕損減損が工程の途中で発生している場合、完成品と月末仕掛品の両者に正常減損費を負担させます。両社負担の方法は、原価を完成品と月末仕掛品に按分します。

原 料 費			
月初	800kg	完成	
1, 600, 000 円			7, 200, 000 円
投入	3, 200kg	3, 000kg	(差額)
7, 520, 000 円		減損 200kg	—
		月末	1, 920, 000 円
		800kg	

月末仕掛品原価

(1, 600, 000 円 + 7, 520, 000 円)

$$\times \frac{800\text{kg}}{3, 000\text{kg} + 800\text{kg}} = 1, 920, 000 \text{ 円}$$

加 工 費 (数量は完成品換算量)			
月初	400kg	完成	
749, 500 円			7, 344, 000 円
投入	3, 200kg	3, 000kg	(差額)
7, 573, 700 円		減損 200kg	—
		月末	979, 200 円
		400kg	

月末仕掛品原価

(749, 500 円 + 7, 573, 700 円)

$$\times \frac{400\text{kg}}{3, 000\text{kg} + 400\text{kg}} = 979, 200 \text{ 円}$$